

第五の時代

占星術では7つの惑星霊がよく知られています。順にあげていくと、土星、太陽、月、火星、水星、木星、金星となります。

最後に「霊」という名称がついているのは、人間のうちに存在する神の中の7つの霊という意味であり、7つの原理とも呼びます。人類が宇宙の法則を悟り、宇宙の理解をサポートしてくれる大切な存在です。

ちなみに、この7つの惑星霊の他にサポートしてくれる存在として、霊界には天使（表1）、時代霊（表3）、民族霊（表4）が存在します。

人間の進化の行程

新約聖書・ヨハネの黙示録によると、私達人間が精神を向上させるには、七つの意識、七つの生命、七つの形態が関係していると教示しています。

これらを合わせ、 $7 \times 7 \times 7 = 343$ 段階を経ることになりますが、現在は第五・サルデスの後半を生きています。

「私はあなたの行いを知っている。あなたは生きてるとされているが、実は死んでいる。目を覚ましなさい。そして、死にかけているほかの人たちを力づけなさい。あなたの行いが、わたしの神の御前に全うされたとはみていない」。黙示 3 サルデスの教会の言葉より抜粋

一言でいえば、「お天道様はお見通し」。全てを照らす光（後光）は、あなたの行動（悪行、虚栄、嘘など）を記憶しています。これにつきます。

人間は肉体という物体、エーテル、アストラル体の順に構成され、その中に意志、感情、思考が組み込まれています。

現在、第6～7文化期（表1）にあたる人間の課題は「自我の強化」です。自我は肉体とエーテルの二者の中心に存在します。

キリストの聖餐（A.D.）～暗黒時代を経て、人間は自由精神を宇宙から受け取りましたが、※自我については未だ学習中といった段階です。

※心臓や背中を司るしし座のルーラ・支配星は太陽、ナチュラルハウス（5th）。

つまり1-2-3-4-⑤-6-7-8-9の中心部＝自我ということになります。

20世紀における宗教では、神が人類に下降するという「唯物的概念」が一人歩きを始めましたが、本来ならば一人一人の人間が神々の存在に気が付き、近づく努力をしなければなりません。

それが自我意識に目覚めるという意味です。神々の恩恵に感謝し、彼ら（表4参照・現在はミカエル）の意志にしたがって、自我の進化に励んでいくのです。

太陽 ☉と天王星 ♅ or ♁

太陽は生命霊、人体でいえば背中・心臓部です。

天王星は唯物高次の自我・霊我へと導く惑星・天体です。エソテリック占星術では、個々のホロスコープ上の太陽と天王星の関係（アスペクトの状態）をとりわけ重視します。天王星のグリフは、生命・エネルギーの高揚（意識の覚醒）を示すとともに、心身の健康（若返り）をとりもってくれます。いってみれば生命に電流を流し刺激を与える惑星であるといえます。

たとえば、進行図（Progression）P☉と出生図（Natal）♌♁、あるいはトランジット T♁が出生図（Natal）N☉と（♄,♁,♁）すると、突然意識（あるいは過去の努力）が開花し、今までにみない飛躍的発展を遂げます。ただ、中枢神経を興奮させるので、その力に対応できる精神性が備わっていなければ、悟りの開眼どころか、狂気の沙汰に陥る危険性が有ります。

通常は瞑想を通して精神の統一をはかりながら第三の目を開眼します。しかし、天王星の電力によって生命の光が強めるという覚醒法は、体内を流れる電力・性の力を上昇させるので、体内発火による火傷を負うこともあり、大変危険であると言われています。

いっぽう、キリスト教グノーシス派の教えで「人間の魂の内部で火花が散ると、聖なる神（冥王星の神意）に出会える」と言われるように、この力によって今まで見えなかったり、理解できなかったりした物事の真相が見えてくるようになる、とも解釈できます。

ヒラム（霊火）は脊柱の環節（32か33段階）・7つの聖なる封印を通して上に向かいます。このヒラムが、頭蓋骨（パルテノン）に入っていくと脳下垂体（イシス）のラー（松果腺・体）に出会えます。冥王星♁（8thハウス）が支配する天蠍宮♏の天王星♁が、エクザルト（強化・賞揚）されるわけが、以上の説明からお解りいただけると思います。図2、3参照

何故、☉（太陽・生命霊）にも（天王星・啓発の力）が必要なのか、以下の図で検証してみましょう。図2は人体におけるマイクロコスモスです。太陽（☉ 生命）を始点に、螺旋状に頭部（♁）へと達しています。

ギリシャ神話のウラノス（天王星）は、陽根・男根の象徴として描かれていますが、脊髄のあたりに眠る性の力（創造の力）が点火すると、突然、覚醒する場合があります。

また、「羽のある鳥」として崇められてきたアステカのケツァル（鳥）、コアトル（蛇）は、低次の自我（および物体を照らす太陽）の象徴ですが、蛇が古い皮を脱いで、新しい皮を作り出すという意味もあります。やがて、生死を繰り返すうちに光子となり、太陽霊と融合するという壮大な宇宙理論であり、思想です。図4参照

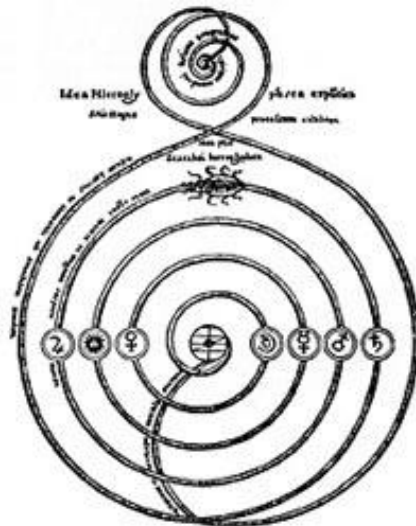
また、ヨーガでいう創造のカクンダリーニ・蛇の力も同格です。宇宙衝動・性の力（蛇）が、物質的な快樂（5th・中心）へと向かうと、☉・♁の理性や自我はやがて利己心、怒り、欲望に変容していきます。リリス（♀）参照

図1：中央は人体（地球）の始点⇒月⇒金星⇒水星⇒太陽⇒火星⇒木星⇒土星⇒ここから宇宙の領域に入る（トランスサタニアン）天王星⇒海王星⇒冥王星は中央の結び目。

虫・スカラベ（scarab）は、古代エジプトの護符ですが、人は誰も生まれた時点で一匹の虫が発生します。

虫がつく、虫の知らせ、虫食む、虫食い、泣き虫、虫の息、虫がいい、虫も殺さない、虫の居所が悪い・・・など虫にまつわる言葉はたくさんあります。

この虫



聖書には3 2～3 3の福音書があります。バラモンの聖典、日本の「ホツマ伝」でも神の名前が3 2～3 3回登場します。この3 2～3 3という数は、人間の心身の成長を促す※月の周期・バイオリズムにほかなりません。聖書、聖典はいずれも隠喩・暗喩的なストーリーですから、心の目で熟読することが大切です。

※心身の明暗・バイオリズムは、(○と) (ルミナリー) のアスペクトから読み取ります。